

## 4. 舞鶴市における歴史文化を活かしたまちづくりの進め方

舞鶴市は、海との深い関わりのなかで、特色ある歴史文化を育んできた。こうして育まれてきた舞鶴市の魅力ある歴史文化遺産を保存し、活用することにより未来へ引き継ぐことを目的として、舞鶴市の特徴を6つの視点で捉えテーマとして設定した。まずは、地質時代から現代までの全時代と全市域を特徴付けるテーマとして、「1. 多様な自然に育まれた歴史文化」、「2. 人と海との関わりが息づく歴史文化」、「3. 山と里の信仰と交流が培った歴史文化」の3テーマ、舞鶴市の特徴的な時代背景や地域の特色に焦点を絞ったテーマとして、「4. 近世城下町と里によって形づくられた歴史文化」、「5. 海軍鎮守府開庁により築かれた歴史文化」、「6. 引揚者を迎え入れた歴史文化」の3テーマである。点で存在する歴史文化遺産に、テーマやストーリーが加わることによって点が線(ルート)でつながり、複数の線がつながることで、関連文化財群として面(エリア)での活用が可能になる。テーマやストーリーの設定は、新たなつながりを創出し、景観施策や観光戦略、産業の発展など複合的な波及効果や、市民・行政・専門家・市民団体等の協働や他市町村等との連携を生み出すなど、多岐にわたる展開が見込まれる。

これら6つのテーマとストーリーをもとにして、歴史文化遺産を活かしたまちづくりを進めるために、基本理念である「歴史文化の魅力を探り、学び、活かし、引き継ぐ」を指針とした「舞鶴モデル」を創造し、全市域にむけた活用へと展開していくこととする。

まずは、歴史文化を活かした中長期的なまちづくりを進めていくために、次に示す取り組みを推進することとする。

### (1) 継続的な調査の実施と新たな歴史文化遺産の発掘

#### ①歴史文化遺産の再調査による価値の再発見

本構想策定を契機として進めてきた調査の結果、舞鶴市の歴史文化遺産のなかには指定等文化財以外にも多様な歴史文化遺産が現存していることが明らかとなった。このため、大学や地元の舞鶴工業高等専門学校などの高等教育機関等と連携しながら、舞鶴市の歴史文化を特徴付ける歴史文化遺産の価値の再発見にむけた継続的な調査を進めていく。

#### ②市民・地域との歴史文化遺産の発掘の推進

本構想で実施した「地域のたからもの」アンケート調査の結果、市内の各地域においては、身近な生活のなかで保存されてきた歴史文化遺産が数多く継承されてきたことが把握できた。このため、今後も継続して、市民や地域と連携しながら、身近な歴史文化遺産の掘り起こしにむけた取り組みを推進する。

### (2) 歴史文化遺産活用の取り組み

#### ①舞鶴モデルを使った歴史文化遺産の活用

舞鶴にある歴史文化遺産は特徴ごとに日本を代表するものがある。引き揚げに関する資料群は世界記憶遺産に登録され、鎮守府の設置により近代都市を形成した中・東地区を中心に所在する近代化遺産は日本遺産の構成文化財に認定されるなど「発見」「価値の理解」「発信」「保存活用」のサイクルのなかで歴史文化遺産を磨き上げ活用してきた。他にも舞鶴の特徴としてあげられる「漁村集落の景観」や「今に息づく祭礼芸能・伝統行事」、「城と城下町の町並み」などについても舞鶴モデル(「探る」「学ぶ」「活かす」「引き継ぐ」のサイクル)を使った活用の取り組みを進める。

## ②歴史文化保存活用区域の設定および保存活用計画の策定

歴史文化基本構想で定めた基本方針や取り組み内容を積極的に実現するためには、計画的な取り組みが不可欠である。このため、歴史文化保存活用区域を設定したうえで、歴史文化保存活用計画を早い時期に策定することとする。

## ③構想の更新

本構想は歴史文化遺産を総合的に保存・活用するための計画である。今後、新たな歴史文化遺産の掘り起こしなどにより、舞鶴市の歴史文化を語るうえでの新たなテーマやストーリーを構築することも必要となる。このため、調査の進捗や社会環境の変化などを踏まえながら、適宜、歴史文化基本構想の更新をおこなうこととする。

## (3) 景観・観光・産業分野との連携の推進

### ①赤れんが倉庫群の整備活用

舞鶴市の近代化遺産を代表する赤れんが倉庫群は、現存する12棟のうち5棟が整備され、多くの観光客で賑わいをみせている。今後も赤れんがパーク周辺一帯の全体整備や商品開発を観光分野の関係機関と連携しながら進め、さらなる歴史文化遺産の魅力向上に努めていくものとする。

### ②舞鶴らしさの景観保全を推進する条件整備

舞鶴市の歴史文化に関わる景観のうち、特に漁村集落の景観に主眼を置いて、景観保全を進めていくためには一定の条件整備が必要とされる。

特に、漁村集落を文化的景観として調査・保存の措置を図るためには、第一に景観行政団体へむけての取り組み、第二に舞鶴市における景観計画の策定が必要となる。このため、庁内における景観部局との連携を図りながら、景観計画の策定にむけた取り組みを進めることとする。また、京都府選定文化的景観の選定にむけた取り組みも並行しておこない、景観を活用した地域の活性化と観光客の誘致を進めていくものとする。

### ③城下町の「歴史のみち」整備との連携

西地区は、城下町としての町割りを残すとともに、多くの歴史文化遺産が点在している。この歴史文化遺産を周遊できる「歴史のみち」を整備することによって、地域住民が誇りに思う町並み景観を形成するとともに、城下町の魅力に磨きをかけることができる。さらに、地域の歴史や芸屋台などの伝統文化を外部に発信することも期待できる。このため、関係機関と連携しながら、「歴史のみち」整備を推進する。

### ④地域資源を活かした伝統産業・農林水産業との連携

酒づくりなどの伝統産業や、かまぼこ生産や万願寺甘とう等の銘柄ブランド化された農林水産物などの地場産業が暮らしに関わる歴史文化をつくりだしている。このため、農林水産加工品や酒づくり、銘柄ブランド化された万願寺甘とう、佐波賀だいこん、舞鶴かぶ、舞鶴茶、丹後とり貝などを継承していく。

## (4) 広域連携の推進

### ①京都府北部地域との連携

京都府北部にある5市2町は「京都府北部地域連携都市圏形成推進協議会」を構成し、京都府北部地域の創生に取り組むため、それぞれが有する強みを活かして都会にはない豊かで文化的な生活環境を有する30万人都市圏を実現するため協働・連携して取り組みを進めている。

観光振興分野では京都府北部が京都縦貫自動車道の全線開通や京都舞鶴港への大型クルーズ船寄港など、アクセスが飛躍的に向上し、海の京都観光圏を構成している。今後も(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社(略称「海の京都DMO」)と連携しながら、舞鶴市の歴史文化遺産を活用した観光振興を進めていくものとする。

#### ②旧軍港4市(横須賀・呉・佐世保・舞鶴)との連携

旧海軍鎮守府が置かれていた横須賀市・呉市・佐世保市・舞鶴市の4市は、戦後、平和産業港湾都市へと生まれ変わったが、市内には海軍ゆかりの遺産が多く残る。近年はこれらの近代化遺産を活用し、平成28年(2016)には「日本近代化の躍動を体感できるまち」のストーリーが日本遺産に認定されたところである。今後も旧軍港4市の歴史文化の魅力発信するため、連携して多様な取り組みを進めていくものとする。

#### ③全国近代化遺産活用連絡協議会との連携

舞鶴市は、旧海軍鎮守府に係る近代化遺産が数多く現存する都市であり、これまでも近代化遺産に係る調査をおこなってきた。

このため、近代化遺産の保存・活用と伝統産業等を活かした地域振興、歴史的町並みの保存、地域資源を活かした新たな観光の創出に資することを目的とした全国近代化遺産活用連絡協議会と連携しながら、国内外に舞鶴市の近代化遺産の魅力発信する取り組みを進めていく。

#### ④その他関連地域との連携

舞鶴市は、歴史的・文化的背景や、近年における交通アクセスの整備により、年々京阪神や日本海沿岸地域の移動も格段に良くなっており、今後の交流人口の拡大や観光施策などの面で連携が期待されている。これまでも、京都府北部域の5市2町と共同して、歴史・文化・自然などの地域資源や観光振興など広域的なまちづくりへの取り組みが進められており、今後も引き続き連携していく。

### (5) 歴史文化を活かしたまちづくり体制の構築

歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくためには、庁内各部局との連携、市民や地域との連携、さらには、外部の専門家等との連携が不可欠である。

このため、文化財部門、まちづくり部門、景観部門、教育部門などの庁内各部局、ならびに各地区の自治会などの組織、加えて、大学などの研究機関が連携して文化や知識を共有しながら歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくための体制を早期に構築するものとする。

## おわりに

舞鶴市には、市域全域に数多くの歴史文化遺産が保存・継承されており、「舞鶴市歴史文化基本構想」を策定することは、生活やまちづくりの基盤として欠くことのできない豊かな歴史文化遺産を、将来にむけて引き継ぐ重要な役割を果たすこととなる。

従って、自然環境の保全や農林水産業・商工業の活性化、観光振興、地域間交流や生涯学習など、各分野の施策の推進にあたっては、歴史文化遺産の保存活用との関係を考慮することが不可欠であり、本構想はこれらの施策の効果的な推進を後押しする役割りを担うとともに、歴史文化を活かしたまちづくりのためのマスタープランとして歴史文化の側面から、各施策の推進を支える構想として位置付けるものである。

本構想を実現し、継続可能なものとするためにも、市民との協働による文化財の活用を通じて、未来へ引き継ぐ取り組みとして成功に導いた「赤れんがモデル」で培われたサイクルをより一層発展させ、「歴史文化の魅力を探り、学び、活かし、引き継ぐ」基本理念のもと、市内各地で新たなまちづくりの指針となる「舞鶴モデル」を創造し、舞鶴市全域に展開することが重要である。そのためにも、庁内各部局、市民や地域団体、外部の専門家等と連携しながら歴史文化遺産を活かしたまちづくりを進め、未来に引き継ぐための取り組みを進めていくものとする。

## 【参考文献】

- ◆『丹哥府志』世界聖典刊行協会、1979年
- ◆京都府教育会加佐郡部会『加佐郡誌 復刻版』臨川書店、1985年
- ◆京都府環境部自然環境保全課企画『京都府レッドデータブック 2015』サンライズ、2015年
- ◆京都府文化財保護課編『京都府中世城館調査報告書 第1冊丹後編』京都府教育委員会、2012年
- ◆財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター編『京都府遺跡調査報告書 第29冊』浦入遺跡群(本文編)、財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター、2001年
- ◆財団法人日本ナショナルトラスト編『舞鶴赤煉瓦建造物群調査』財団法人日本ナショナルトラスト、1997年
- ◆舞鶴市編『舞鶴史話』舞鶴市、1954年
- ◆舞鶴市企画・編集『細川幽斎と舞鶴』舞鶴市、2013年
- ◆舞鶴市等企画・編集『舞鶴の守りたい自然：自然環境データブック』舞鶴市生活環境課、2008年
- ◆舞鶴市等企画・編集『舞鶴の守りたい自然②：舞鶴フィールドミュージアム』舞鶴市生活環境課、2015年
- ◆舞鶴市企画政策課『舞鶴市人口ビジョン』舞鶴市、2015年
- ◆舞鶴市教育委員会『舞鶴市文化財調査報告書第36集 浦入遺跡群発掘調査報告書』遺物本文編、舞鶴市教育委員会、2002年
- ◆舞鶴市教育委員会編『舞鶴の文化財』舞鶴市、1986年
- ◆舞鶴市社会教育課企画『舞鶴の近代化遺産』舞鶴市・舞鶴市教育委員会、2001年初版、2008年・2013年改訂
- ◆舞鶴市社会教育課企画『舞鶴の民家』舞鶴市・舞鶴市教育委員会、2003年初版、2016年改訂
- ◆舞鶴市社会教育課『舞鶴の文化財』舞鶴市教育委員会、2014年
- ◆舞鶴市文化振興課企画『舞鶴の絵地図』舞鶴市、2015年
- ◆舞鶴市郷土資料館編『舞鶴のあゆみーふるさとの歴史を語る文化財』舞鶴市郷土資料館、1988年初版、2013年改訂
- ◆舞鶴市田辺城資料館『田辺城の歴史』舞鶴市教育委員会・舞鶴市田辺城資料館、2014年初版、2018年改訂
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』史料編、舞鶴市、1973年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』各説編、舞鶴市、1975年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』通史編上、舞鶴市、1993年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』通史編中、舞鶴市、1978年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』通史編下、舞鶴市、1982年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』現代編、舞鶴市、1988年
- ◆舞鶴市史編さん委員会編『舞鶴市史』年表編、舞鶴市、1994年
- ◆舞鶴引揚記念館『平和の願いを未来へ 母なる港舞鶴』舞鶴市、2015年
- ◆安田重晴『まいづる田辺 道しるべ』出版センターまひつる、1998年
- ◆一般社団法人観光協会ホームページ／舞鶴観光ネット
- ◆環境省自然環境多様性センターホームページ／自然環境保全基礎調査
- ◆国土交通省ホームページ／土地利用調整総合支援ネットワークシステム
- ◆国土交通省GISポータルサイト／国土数値情報
- ◆国土交通省国土調査ホームページ／5万分の1土地分類基本調査
- ◆国土交通省気象庁ホームページ／過去の気象データ
- ◆国土交通省国土地理院基盤地図情報サイト
- ◆総務省統計局ホームページ／統計データ

# 舞鶴市歴史文化基本構想

平成 30 年 3 月 30 日発行

- 発行：舞鶴市
- 編集：舞鶴市市民文化環境部  
地域づくり・文化スポーツ室文化振興課  
京都府舞鶴市字北吸 1044 番地
- 印刷：株式会社コザイ印刷所  
京都府舞鶴市字京田 139 番地

